

「リスペクト・アザーズ」

僕は日本人の両親を持ちながら、アメリカのサンディエゴで生まれて、10歳半まで生活し、地元の保育園、幼稚園、小学校に通った。

その中で出会った先生たちが、何度も口にした『**respect others** (リスペクトアザーズ)』という言葉は、今も僕の行動や考え方に大きな影響を与えている。

サンディエゴはロサンゼルス以南にあり、メキシコの国境から1時間程度だったので、土地がらのせいか、クラスには、肌の色も髪の毛の色も本当にいろいろな人種の人がいた。

僕が物心ついたときには、周囲にいろいろな人種の人がいるのが当たり前の状況だったので、自分がまわりの人と違うことも当然だと思っていたし、それに対して深く考えることもなかったように思う。

どこの国でも同じだと思うが、集団生活が始まると、誰かが意地悪をしたとか、誰かがだれかにいじめられたとか、いわゆる人間関係のトラブルが起こってくる。そんなとき、先生たちは必ず『**respect others** (リスペクトアザーズ)』と言い、やった人に反省するように伝えた。

『リスペクト』の意味もはっきり分からない保育園や幼稚園の頃から、何かがあるたびに『**respect others** (リスペクトアザーズ)』と繰り返し繰り返し言われ、たたきこまれた。日本語にすると、「他人のことを尊重しなさい」というような意味だ。今思うといじめやトラブルがあったときに、そのときの行動を、「いじめはダメ！！」「意地悪しないで、みんな仲良くしなさい」と注意するのではなく、『**respect others** (リスペクトアザーズ)』と言って、その行動を起こしてしまった元の考え方を問題にしていたのだ。

また、この言葉は僕が入っていたリトルリーグの監督やコーチたちもよく使っていた。選抜テストがない地元のリトルリーグでは、うまい選手とうまくない選手が混合して、12人でチームとして試合に出なければならなかった。あまりうまい選手がフライをポロリととりそこなったとき、チーム全体が「おい、この下手くそ」と怒鳴りたくなる場面で、監督やコーチは『**respect others** (リスペクトアザーズ)』と言った。

やる気がなくてエラーをするのはもってのほかであるが、やる気があっても上手くできない選手はいるのである。この場合は、そこをわかってやれという意味だと思っている。実際初心者だった僕は、この言葉を聞いて救われる気持ちになり、もっと上手くなるようにうんと頑張り、シーズン最後にはチームのために少しは役立つプレーができるようになった。

(裏面へ)

その後、僕は日本の小学校に通い始めた。周囲のみんなのおかげで生活にはすぐに慣れたが、同時に大きなカルチャーショックも受けた。一番驚いたことは、みんながほかの人と大きく違わないように、なるべく同じになるように非常に気を遣っているように見えたことである。

他人より上手くいかないから目立たないようにしているのではなく、他人より上手くできても目立たないようにしているように感じた。僕は最初のうち、そのノリが分からず、今まで通り自分が上手くできたことを伝えていたら、「それは自慢だ」と言われて何とも悲しい気持ちになった。

また、友達同士で相手の気持ちになれば絶対言えないようなひどい言葉を言い合っている、『冗談』と言ってあいまいに流していることにも驚いた。僕にはよく分からない世界だった。僕がずっと言われてたたき込まれていた『**respect others (リスペクトアザーズ)**』の世界はここにはなかった。

僕の限られた経験の話になるが、アメリカ（サンディエゴ）ではなぜそんなに『**respect others (リスペクトアザーズ)**』を子どもたちからたたきこんでいるのだろうか。

それは、アメリカ社会が最近までひどい人種差別などを行ってきたことの反省からかもしれない。住む場所を人種が違うという理由で制限したり、公園やバスなどの公共の場でも座る場所を分けていたり、差別するのが当たり前で、みんなが差別したり、されたりすることに何の疑問も持たずに時間が過ぎていった過去がある。

そんな間違いをこれから先に繰り返さないように、子どもたちにたたきこんだり、またそうすることで大人も自分自身を反省したり、気を付けたりするようになっているのかもしれない。

僕は日本でももっと『**respect others (リスペクトアザーズ)**』が広まっていけばいいと思う。日本は表面的には差別のない社会なので、この言葉を広めることは必要ないと思われるかもしれない。

しかし、これこそが人権を考える上での基本だと思う。

人権尊重の社会を作っていくのは、僕たちひとりひとりの考え方によるからだ。

同じ人間は一人もいない。

人と違うことが、また、その人の個性である。

違う点だけでなく、うまくいったこと、できなくても努力していくことなどを尊重し合っていくことができれば、もっと素晴らしい社会になっていくと思う。

神奈川県 鎌倉市立御成中学校3年 坪井 洸（つばい こう）さんの作文（一部を分かりやすい言葉にしています。）